

POTT 研修会だより 2

三次地区医療センター病院（広島県三次市）

日時 2016年2月19日17時～19時30分

場所 三次地区医療センター病院 研修室

内容 POTTプログラム

参加者 病棟看護師9名（リーダー中心、看護部長・副部長）

指導 迫田 摂食嚥下障害看護認定看護師 1名

サポーター 認定看護師3名

研修会進行 講義30分 デモ（ベッド上・車いす）

- ① いつもやっているポジショニング⇒リクライニング30度→食事介助
- ② POTTでのポジショニング⇒リクライニング30度→食事介助 全介助
- ③ 60度→食事介助 自立支援としての介助
- ④ 車いす シーティング
- ⑤ 振り返り 体験や学びの共有

研修の一コマ みんな真剣です！



●参加者振り返り

- いままで足抜きをしてなかった。足抜き気持ちよかった。絶対しようと思った。
- 足抜きよかった。バスタオルをくるくるまいたものが気持ちよかった。
- 手の位置、脇にぐっと枕をいれると安定するのが楽というのがわかった。
- 角度ばかりに気をとられていた。なぜ途中で食事をやめられるのかわからなかったが、手のサポートがないので、力がつきていたのがよくわかった。明日から気をつけてやってみたいと思う。食物は、舌の中央におくことの大切さがわかった。
- 久しぶりの技術トレーニングに感動した。頭の三角枕をいれると顎がぐっと引けた。少し工夫することで姿勢が変わることがわかった。
- 足の裏が接地していないと、食べれないのがよくわかった
- 背が小さいので、足裏が着いた方が楽なのがよくわかった。足がぶらぶらしていた。車いすの時に、足の下へ台を入れる大切さがわかった。
- 食事をやめてしまう人に「ああなのか、こうなのか」と考えてあげたい。自分がやってみないとわからないと思った。枕の種類もたくさんいるんだと思った。
- なんとなくポジショニングも食事介助もできていると思っていたが、実際やると難しい体位で患者さんにしてきたんだと思った。
- ポジショニング研修は、自分達が体験する中で、「なんてことをしていたんだろう！」という気になるので大事だと思う。(私の病院では)1年かけて病院看護師全体の研修をおえることができた。食事姿勢は、ずいぶん変化してきている。(近隣認定看護師サポーターTさん)

新たな“POTT アイテム” 開発！

同院摂食嚥下障害看護認定看護師の

岩本ともみさんが考案された、

「ポジショニング用三角枕」

誤嚥予防のための頭頸部の進展を

予防する枕。ほどよい厚さと

弾力があり。職員の手作りで、

刺繍も付いています！

患者に優しいアイデア満載！



患者体験は、自分の看護技術を振り返るきっかけとなり、沢山の学びを得る研修になったようです。院内に拡がることを実感しました。適切なポジショニングは、患者の変化がすぐに現れます。看護が楽しくなるのが、ポジショニングの魅力だと伝えて終わりました。